法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-06

＜報告＞ESD for 2030持続可能な開発アジェンダとMIL、デジタルシチズンシップ : 科学技術イノベーション型の教育からESD for 2030への転換

長岡, 素彦

(出版者 / Publisher)
法政大学図書館司書課程
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
The Journal of Media and Information Literacy / メディア情報リテラシー研究
(巻 / Volume)
2
(号 / Number)
1
(開始ページ / Start Page)
138
(終了ページ / End Page)
141
(発行年 / Year)
2020-09

法政大学図書館司書課程
メディア情報リテラシー研究 第2巻1号, 138-141

ESD for 2030持続可能な開発アジェンダとMIL、デジタルシチズンシップ

―科学技術イノベーション型の教育からESD for 2030への転換―

長岡素彦
一般社団法人地域連携プラットフォーム 代表理事

持続可能な開発のための教育 (以下、「ESD」とする) とメディア情報リテラシー (以下、「MIL」とする) の関係については、既に論じられているが ESD for 2030 持続可能な開発アジェンダ (ESD for 2030) の段階での両者の関係とグローバルシチズンシップとデジタルシチズンシップの関係を述べる。

あわせて科学技術イノベーション型の教育から ESD for 2030 への転換について論じる。

1．ESD for 2030持続可能な開発アジェンダ(ESD for 2030)

第 74 回国連総会決議「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030)」[(1)] において 2030 持続可能な開発アジェンダのための ESD(ESD for 2030) では、「ESD は SDGs の達成の不可欠な実施手段」であり、「すべての教育段階において包摂的かつ公正な質の高い教育」あることが確認された。また、SDGs に関連するトピックを取り上げるだけでなく、異なる SDGs の目標間を相互に関係づけ、持続可能な開発自体を促進する。

SDGs の本体は「我々の世界を変革する : 持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」であり、SD 持続可能な開発に基づいている。SDGs の目標、ターゲットはその一部で、SD 持続可能な開発で行われる。

SDGs を現在の制度に SDGs を取り入れるのではなくアジェンダ で述べられたようにトランスフォーミング (Transforming) である

また、SDGs4-7 の ESD は「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」(SDGs4-7) もので、2005 年から国連 DESD 持続可能な開発のための教育の 10 年のプログラムとして、ユネスコをリーディングエージェンシーとして先行して全世界で行われ、その後、ESD の推進枠組みであるグローバルアクションプログラム (以下、「GAP」とする) で推進されてきた。

その GAP の後継枠組みでもある 2030 持続可能な開発アジェンダのための ESD(ESD for

2030) では、引き続き GAP の優先行動の 5 分野である「1. 政策的支援」、「2. 機関包括型アプローチ」、「3. 教育者」、「4. ユース」、「5. 地域コミュニティ」が掲げられた。そして、ここでは各分野でのマルチステークホルダーの包括的ネットワーク、及び、優先行動の 5 分野の横断的パートナーネットワークの推進が定められた。

特に、優先行動「1. 政策的支援」では、教育と持続可能な開発に関連する国際的および国内の政策に ESD を統合することが強調された。

2030 持続可能な開発アジェンダのための ESD では、ESD の存在意義は開発や持続可能な開発自体に批判的問いを投げかけることとし、システム自体をトランスフォームするディスプラクション (Disruption) であるとしている。

また、ESD は単なる「学習」ではなく、トランスフォーミング (Transforming) のためのトランスフォームする行動 (Transformative action) で、行動するシチズンシップ (citizenship in action) であるなども明示された。

2. 科学技術イノベーション型のSDGs教育から2030持続可能な開発アジェンダのためのESD(ESD for 2030)へ

まず、2030 アジェンダ SDGs(以下、「SDGs」と略する) とデジタルトランスフォーメーションのひとつである Society 5.0 については、政府は Society 5.0 を「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」(内閣府) と定義しているが、AI・人工知能、RPA(Robotic Process Automation) などの Indutrory4.0 により社会環境などが変化し、こどもたちが存在していない全く新しい仕事に就くことになるという予測もされている。

SDGs は持続可能性を基本に「誰一人取り残さない」を目指して国連加盟国が定めた目標である。

日本政府は科学技術イノベーション SDGs を推進している。科学技術イノベーション SDGs はデジタルトランスフォーメーション (Society 5.0、Indutrory4.0) を基本に、教育を始め全ての分野で科学技術を中心に据える SDGs(2) である。教育分野でも、「AI 戦略 (人材育成関連) 」(3)、及び、中央教育審議会「新しい時代の初等中等教育の在り方について」の「Society5.0 時代の教育・学校・教師の在り方」(4) では、科学技術イノベーションの教育や ESD を推進する方向になっている。

2030 持続可能な開発アジェンダのための ESD(ESD for 2030) では、MIL に限らず、直接に個別の分野の教育について述べてはいないが、科学技術イノベーション型の SDGs 教育と ESD については「9. 技術の未来」で技術の進歩は「古い」持続可能性の問題の解決策を提供する可能性があるが、「しかし、技術的ソリューション自体が新たな課題をもたらしたり、単に元の問

題を解決したという幻想を作り出したりする場合がある。したがって、ESD とその批判的思考の重視は、ますます重要になっている。」(長岡仮訳)[5]

このように、科学技術イノベーションを無批判に教育に取り入れるのではなく、環境によい技術の習得によるグリーンテクノロジーへのトランジッションを評価しながら持続可能な価値を尊重し、イノベーションすすめるものである。

このようにデジタルトランスフォーメーション（Society 5.0、Indutrory4.0）に対応することは重要であるが、ESD や教育を科学技術イノベーション型の教育にするのは問題である。

あくまでも、ESD は科学技術イノベーションに限らない方法で持続可能な開発を行うものである。

つまり、2030 持続可能な開発アジェンダのための ESD(ESD for 2030) では、科学技術イノベーション型の SDGs の教育や「AI 人材」の教育・Society 5.0 の教育から、これらを統合した E

3. ESDとMIL、デジタルシチズンシップ

MIL(メディア情報リテラシー) とはメディア機能を理解しコンテンツを批判的に読み解き、実践するメディアリテラシーと情報の整理し評価する情報リテラシーを統合、発展させたものである。

ユネスコの MIL では「5 原則」のひとつに SD 持続可能な開発が挙げられ、また、SDGs のコミットメントを具体的な形にしている。

坂本は ESD と MIL は「基本となる教育理念や方法に大きな共通性を有している」[6] と既に指摘している。また、MIL と ESD を融合するメディア情報リテラシー型 ESD (長岡 .2015) の実践も行われている [7]。

このように、既に ESD と MIL について関係づけられているが、2030 持続可能な開発アジェンダのための ESD(ESD for 2030) では、前述の技術ソリューション自体への批判的思考の重要性など MIL が既に担っている教育役割が述べられている。

また、「知識と情報の修得」の項目では、以下のように述べられている。

「知識と情報の修得により、学習者は特定の現実の存在に気付くようになる。批判的な分析により学習者はそれらの現実の複雑さを理解し始める。体験で明らかとなった現実が学習者に問題とのより深いつながりを提供し、それはまた、上記の現実の影響を受けた人々への共感的なつながりをもたらす可能性がある。」(長岡仮訳)[8]

この ESD の「知識と情報の修得」の現実の存在への気付き、現実の複雑さのより深い理解、つながりなどは MIL が既に教育において担い、また、この「知識と情報の修得」などは深化させている。

しかし、日本政府は科学技術イノベーション型の教育や「AI 人材」の教育・Society 5.0 の教育をすすめ、メディアリテラシーを「メディアを活用する能力」とし、コンピューテイショナル思考を「プログラミング思考」、デジタルシティズンシップを「情報モラル」というような「知識と情報の修得」とは異なる、「スキル習得」に特化した「情報教育」を実施している。

さて、ESD はシチズンシップ、グローバルシチズンシップでもあり、グローバルシチズンシップは「教育が、公正、平和、寛容、包摂、安全、持続可能な世界を確保するために、学習者が必要とする知識、技能、価値と態度を育てる枠組み」(9) である。

ESD がシチズンシップであることは、ESD が単に知識と情報の修得だけでなく、それが学習者に問題との深いつながりや現実の影響を受けた人々への共感的なつながりをもたらし、持続可能な世界に参画することになるからである。

デジタルトランスフォーメーション、Society 5.0 の時代では、人々はエージェントとして、デジタルな公共性の空間に参画するようになっており、そこでのシチズンシップ、デジタルシチズンショップが重要になる。

従って、ESD for 2030 持続可能な開発アジェンダ (ESD for 2030) では、MIL の成果などにより、ESD はリテラシーはもちろん、さらにシチズンシップ、グローバルシチズンシップとデジタルシチズンシップを基盤に ESD を再構成する必要がある。

そして、SDGs「誰一人取り残さない」世界を目指し、シチズンシップ、科学技術などを内包した ESD・MIL と行動によって、地域と世界を変えていくものである (10)。

---

(1) the UN General Assembly adopted the resolution ‘Education for Sustainable Development in the framework of the 2030 Agenda for Sustainable Development’,2019.11
(2) 長岡素彦,SDGs持続可能な開発目標へのアプローチと参画,武蔵野大学環境研究所紀要,8,2019年3月
(3) 内閣府,AI戦略(人材育成関連) ,2019年4月
(4) 文部科学省,中央教育審議会（第123回）,2019年4月
(5) the UN General Assembly adopted the resolution ‘Education for Sustainable Development in the framework of the 2030 Agenda for Sustainable Development’,2019.11,6
(6) 坂本旬,持続可能な開発のための教育へのメディア情報リテラシー教育導入をめぐる 理論的および実践的課題の検討,キャリアデザイン学部紀要,(13), 171 - 196,法政大学,2016年3月
(7) 長岡素彦,SDGsロードマップー2030アジェンダ・SDGsよるトランスフォーム,武蔵野大学環境研究所紀要,9,2020年3月
(8) the UN General Assembly adopted the resolution ‘Education for Sustainable Development in the framework of the 2030 Agenda for Sustainable Development’,2019.11,4.3
(9) UNESCO,Global Citizenship Education Preparing learners for the challenges of the 21st century,2014
(10) 長岡素彦,SDGs・持続可能な共生をすすめる ESD・地域連携教育,共生科学,第9巻,2018年